九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

短編合巻本類内容目録

九州大学附属図書館

https://doi.org/10.15017/2545044

出版情報：1968. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

(1)

寅

国文
24 L
5 0

338492

¥400,000
大屋書房
43.11.8

短篇合巻本類　　第1—170

文化4—嘉永6
215冊　13cm　和

第1　春海月玉取　6巻（曲亭馬琴作　歌川豊国画）　文政2

第2　大師河原撫子話　6巻（曲亭馬琴作　歌川国貞（　画）　天保12

文

1階　貴重書庫

棚(一)の下

（昭和43年度 特別図書）

昭和43年度特別図書購入計画調書

九州大学

1. 優先順位

2. 書名

短篇合巻本類
山東京伝，曲亭馬琴，柳亭種彦等作
内容目録別紙の通り．　170部　214冊．

3. 内容

本蒐書は大屋書房で集めた短篇合巻170部よりなる．中に合巻を代表する作家，山東京伝・曲亭馬琴・十返舎一九・式亭三馬・柳亭種彦らの作品で画者も一流浮世絵師によるものを含むかなりに良質の蒐書である。

4. 購入を必要とする理由

合巻物はそれ自体近世小説史の一翼をにのうものであるが，浮世絵史，演劇史，風俗史などにも大きな資料となり，その研究の進歩が各方面の研究へ多大の寄与をすることはうたがうべくもない。しかるに合巻物を含む草双紙の研究は，日本文学中で最もおくれた分野の一つである。その理由は多数の原本の比較検討が研究に際して不可欠であるからである．よってこの研究の開拓には，原本の蒐集を前提とする．本学研究室は既に松浦家旧蔵の合巻類を蔵するが更に本蒐書を合せて，その利用度を高め，各方面の研究の捗路を開こうとするのが購入を希望する理由である。

5. 経費所要額およびその内訳明細

6. 購入先

（九州大学第　　位）

短箱合巻本類内容目録

| 書名 | | 教量 | 単価 | 金額 | | |

かたきうちを敵討ちうちの師匠寒ましが木枯しの中を一リ二リ押せ押せと討ちに行く六巻

あこがれ初めし人の面影の忘れがたきを思ひ切りて六巻

うす雪の降りしく山路を平気で行くのは男の意地だと強がりを言ふ六巻

おもひきや君に別れて旅衣袖に涙のかゝらんとは四巻

かゝる世に生れ合せたる不幸をば嘆くも愚痴と人や笑はん三巻

きのふまで元気で居た父上が今日は冷たき骸となり給ふ六巻

くやしくも敵の行方は知れ果てゝ空しく月日を送る身の上六巻

こゝろなき風に散りゆく花の色を見ても昔の恋しきは女の常六巻

さびしさを慰めかねて琴の音に涙そゝぐは我ながらあはれ六巻

しのゝめの空に一番星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

すゞしげに咲き乱れたる撫子の花の上を飛び交ふ蝶の数々六巻

せめて今宵一夜なりとも枕を並べて語り明かしたしと思ふ六巻

そゞろ寒き秋風吹き初めて野辺の虫の音もいとゞ繁くなりぬ六巻

たゞ一人淋しき旅の空に思ひ出すは故郷の母上の事ばかり六巻

ちり行く花の姿を見ても人の命のはかなきを思ひ知らるゝ六巻

つく〴〵と我が身の上を考へて見れば実に不幸の一語に尽きたり六巻

てる月の光を浴びて静かに立てる姿は女ながらも勇ましく見ゆ六巻

とゞまるも行くも共に心にまかせぬ旅の空なれば一日も早く敵を討ちて故郷へ帰りたしと思ふ六巻

なか〳〵に敵の行方は知れ難く空しく月日を送るうちに早くも秋風吹き初めぬ六巻

にくき敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

ぬれ縁に立ちて月を眺むれば昔の事ども思ひ出されて涙に袖を濡らすのみ六巻

ねがはくは一日も早く敵の行方を知りて本望を遂げたしと思ふ六巻

のどかなる春の日ざしを浴びて野辺に遊ぶ蝶の数々六巻

はかなくも散りゆく花の姿を見ても昔の恋しきは女の常六巻

ひとり旅の空に思ひ出すは故郷の母上の事ばかり六巻

ふと見れば庭の撫子の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

へだてなき友だちの中にも打ち明けて話しがたきは我が身の上六巻

ほのかに聞ゆる琴の音に涙そゝぐは我ながらあはれ六巻

まだ年若き身の上として敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

みだれ髪を櫛けづる暇もなく敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

むかし恋しき人の面影の忘れがたきを思ひ切りて六巻

めでたき春の日ざしを浴びて野辺に遊ぶ蝶の数々六巻

もゝ草の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

やさしくも敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

ゆふべの空に星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

よしや身は女なりとも心は男子にまさるとも劣らじと思ふ六巻

らち明かぬ敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

りん〳〵しく敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

るり色の空に星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

れんげ草の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

ろく〳〵寝もやらず敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

わが身ながらも女ながらも心は男子にまさるとも劣らじと思ふ六巻

をり〳〵は故郷の母上の事ばかり思ひ出されて涙に袖を濡らすのみ六巻

ん〳〵と鳴く蜂の羽音を聞くにつけても春の日のうらゝかなるを思ふ六巻

あこがれ初めし人の面影の忘れがたきを思ひ切りて六巻

あはれ六巻

いと寒ましが木枯しの中を一リ二リ押せ押せと討ちに行く六巻

うす雪の降りしく山路を平気で行くのは男の意地だと強がりを言ふ六巻

おもひきや君に別れて旅衣袖に涙のかゝらんとは四巻

かゝる世に生れ合せたる不幸をば嘆くも愚痴と人や笑はん三巻

きのふまで元気で居た父上が今日は冷たき骸となり給ふ六巻

くやしくも敵の行方は知れ果てゝ空しく月日を送る身の上六巻

こゝろなき風に散りゆく花の色を見ても昔の恋しきは女の常六巻

さびしさを慰めかねて琴の音に涙そゝぐは我ながらあはれ六巻

しのゝめの空に一番星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

すゞしげに咲き乱れたる撫子の花の上を飛び交ふ蝶の数々六巻

せめて今宵一夜なりとも枕を並べて語り明かしたしと思ふ六巻

そゞろ寒き秋風吹き初めて野辺の虫の音もいとゞ繁くなりぬ六巻

たゞ一人淋しき旅の空に思ひ出すは故郷の母上の事ばかり六巻

ちり行く花の姿を見ても人の命のはかなきを思ひ知らるゝ六巻

つく〴〵と我が身の上を考へて見れば実に不幸の一語に尽きたり六巻

てる月の光を浴びて静かに立てる姿は女ながらも勇ましく見ゆ六巻

とゞまるも行くも共に心にまかせぬ旅の空なれば一日も早く敵を討ちて故郷へ帰りたしと思ふ六巻

なか〳〵に敵の行方は知れ難く空しく月日を送るうちに早くも秋風吹き初めぬ六巻

にくき敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

ぬれ縁に立ちて月を眺むれば昔の事ども思ひ出されて涙に袖を濡らすのみ六巻

ねがはくは一日も早く敵の行方を知りて本望を遂げたしと思ふ六巻

のどかなる春の日ざしを浴びて野辺に遊ぶ蝶の数々六巻

はかなくも散りゆく花の姿を見ても昔の恋しきは女の常六巻

ひとり旅の空に思ひ出すは故郷の母上の事ばかり六巻

ふと見れば庭の撫子の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

へだてなき友だちの中にも打ち明けて話しがたきは我が身の上六巻

ほのかに聞ゆる琴の音に涙そゝぐは我ながらあはれ六巻

まだ年若き身の上として敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

みだれ髪を櫛けづる暇もなく敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

むかし恋しき人の面影の忘れがたきを思ひ切りて六巻

めでたき春の日ざしを浴びて野辺に遊ぶ蝶の数々六巻

もゝ草の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

やさしくも敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

ゆふべの空に星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

よしや身は女なりとも心は男子にまさるとも劣らじと思ふ六巻

らち明かぬ敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

りん〳〵しく敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

るり色の空に星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

れんげ草の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

ろく〳〵寝もやらず敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

わが身ながらも女ながらも心は男子にまさるとも劣らじと思ふ六巻

をり〳〵は故郷の母上の事ばかり思ひ出されて涙に袖を濡らすのみ六巻

ん〳〵と鳴く蜂の羽音を聞くにつけても春の日のうらゝかなるを思ふ六巻

あこがれ初めし人の面影の忘れがたきを思ひ切りて六巻

あはれ六巻

いと寒ましが木枯しの中を一リ二リ押せ押せと討ちに行く六巻

うす雪の降りしく山路を平気で行くのは男の意地だと強がりを言ふ六巻

おもひきや君に別れて旅衣袖に涙のかゝらんとは四巻

かゝる世に生れ合せたる不幸をば嘆くも愚痴と人や笑はん三巻

きのふまで元気で居た父上が今日は冷たき骸となり給ふ六巻

くやしくも敵の行方は知れ果てゝ空しく月日を送る身の上六巻

こゝろなき風に散りゆく花の色を見ても昔の恋しきは女の常六巻

さびしさを慰めかねて琴の音に涙そゝぐは我ながらあはれ六巻

しのゝめの空に一番星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

すゞしげに咲き乱れたる撫子の花の上を飛び交ふ蝶の数々六巻

せめて今宵一夜なりとも枕を並べて語り明かしたしと思ふ六巻

そゞろ寒き秋風吹き初めて野辺の虫の音もいとゞ繁くなりぬ六巻

たゞ一人淋しき旅の空に思ひ出すは故郷の母上の事ばかり六巻

ちり行く花の姿を見ても人の命のはかなきを思ひ知らるゝ六巻

つく〴〵と我が身の上を考へて見れば実に不幸の一語に尽きたり六巻

てる月の光を浴びて静かに立てる姿は女ながらも勇ましく見ゆ六巻

とゞまるも行くも共に心にまかせぬ旅の空なれば一日も早く敵を討ちて故郷へ帰りたしと思ふ六巻

なか〳〵に敵の行方は知れ難く空しく月日を送るうちに早くも秋風吹き初めぬ六巻

にくき敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

ぬれ縁に立ちて月を眺むれば昔の事ども思ひ出されて涙に袖を濡らすのみ六巻

ねがはくは一日も早く敵の行方を知りて本望を遂げたしと思ふ六巻

のどかなる春の日ざしを浴びて野辺に遊ぶ蝶の数々六巻

はかなくも散りゆく花の姿を見ても昔の恋しきは女の常六巻

ひとり旅の空に思ひ出すは故郷の母上の事ばかり六巻

ふと見れば庭の撫子の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

へだてなき友だちの中にも打ち明けて話しがたきは我が身の上六巻

ほのかに聞ゆる琴の音に涙そゝぐは我ながらあはれ六巻

まだ年若き身の上として敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

みだれ髪を櫛けづる暇もなく敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

むかし恋しき人の面影の忘れがたきを思ひ切りて六巻

めでたき春の日ざしを浴びて野辺に遊ぶ蝶の数々六巻

もゝ草の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

やさしくも敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

ゆふべの空に星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

よしや身は女なりとも心は男子にまさるとも劣らじと思ふ六巻

らち明かぬ敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

りん〳〵しく敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

るり色の空に星光り初めて夜の明けんとするを知る六巻

れんげ草の花咲き乱れたるを見ても昔の恋しきは女の常六巻

ろく〳〵寝もやらず敵の行方を尋ねんとて東へ西へと旅する身の辛さ六巻

わが身ながらも女ながらも心は男子にまさるとも劣らじと思ふ六巻

をり〳〵は故郷の母上の事ばかり思ひ出されて涙に袖を濡らすのみ六巻

ん〳〵と鳴く蜂の羽音を聞くにつけても春の日のうらゝかなるを思ふ六巻

ちよみぐさしらべのふきぐみ	四巻	雅彦校、柳亭仙果作	歌川国安画	天保	五、	一			一、九〇〇
千代見草調冨貴組									
井筒芸子むらさきぶさもん	六巻	仙客亭柏琳作	歌川貞秀画	天保	七、	一			一、九〇〇
八百屋娘紫 房紋の文箱									
よくらごとゆめのかよいぢ	六巻	柳亭仙果作	歌川貞秀画	天保	六、	一			一、九〇〇
蛇琴夢之通路									
ござんぬんてくだのよしへい	六巻	二升代作	立柳亭徳升画	文政	九、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
後三年手煉義家									
夏祭 いろあげだんしちじま	六巻	吉見椎重作	歌川国芳画	天保	四、	一			一、九〇〇
翻安本 改色團七島									
ここにつくだくんのあみじま	六巻	二升代作	立柳亭徳升画	文政	一一、	一			一、九〇〇
実佃天綱島									
一寸見ことしのしんぱん	六巻	市川三升作	歌川国貞画	文政	一〇、	一			一、九〇〇
南枝巨登恙逓新版									
おんなせんどうやぐちのわたし	五巻	二世懸川春町作	歌川国安画	文政	一〇、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
女船頭矢口渡									
そがまつりあづまかがみ	六巻	鶴屋南北口授	岡亭傳笑作	文政	七、	一			一、九〇〇
曽我祭東鑑		亀来作	歌川芳虎画						
烏勘十郎義傳	四巻	岡亭傳笑作	歌川芳虎画	天保	七、	一			一、九〇〇
ちよういちどりかまくらもよう	六巻	二世梅幸代作	歌川豊国画	文政	一一、	一			一、九〇〇
蝶鳥縫倉模様									
怪譚牡丹花桂河波	四巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	天保	六、	一			一、九〇〇
薄化粧垣根卯花	六巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	文化	一〇、	一			一、九〇〇
枝珊瑚京打羽	六巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	嘉永	三、	一			一、九〇〇
ほりかわうたしんじつろく初編	四巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	嘉永	四、	一			一、九〇〇
堀川唄真実録									
おとこだていきぢのやすうり	六巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	嘉永	五、	一			一、九〇〇
俠客浦安責									

マイクロ リストに化し（最後におり）

くわんのうせうにんみのりのあとき	六巻	南亭傳笑作	歌川国兼画	文政	一〇、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
寃能上人御法畫解									
小ひな やまとがきつりのふりそで	四巻	岡亭傳笑作	歌川国貞画	天保	五、	一			一、九〇〇
半矢街 大和染對振袖									
おろちたろうやうあくでん	六巻	二世梅幸代作	歌川豊国画	文政	一〇、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
愚智太郎悪心傳									
ぎんせかいゆきのふりそで	六巻	岡亭傳笑作	歌川芳虎画	天保	七、	一			一、九〇〇
金世界雪振袖									
あたりはんじいなづまやうし	六巻	市川三升代作	歌川国貞画	文政	一一、	一			一、九〇〇
當南枝稲妻表紙		五柳亭徳升改題							
お菊きくざかやちとせのもろこしうが	六巻	古今雑話と改題	文政一一年刊	文政	七、	一			一、九〇〇
香竹菊酒屋千歳諸白髪									
かつもりはおりむかしつうじん	六巻	二世懸川春町作	歌川国安画	文政	一〇、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
蝙蝠羽織世日通人									
名護屋山三時代世話大内鑑	六巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	文化	一〇、	一			一、九〇〇
須磨葛城	六巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	天保	六、	一			一、九〇〇
ちせいがみつるぎのふりそで	六巻	仙客亭柏琳作	歌川国直画	嘉永	三、	一			一、九〇〇
古錦對振袖									
（ばけだいしんくらわのせんせい	六巻	二世梅幸代作	花笠文京	文政	一〇、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
髭大盡郭之金盛									
すみだがわやうがはうけい	六巻	二世梅幸代作	歌川豊国画	文政	一一、	一			一、九〇〇
隅田川屏風八景									
あしでうたうら 歌の由矢街	六巻	岡亭傳笑作	歌川国貞画	文政	一二、	一			一、九〇〇
盃手よしべゑ									
（ごだんばなのいなとり	六巻	二世懸川春町作	歌川国貞画	文政	一二、	一			一、九〇〇
怪談春雛鳥初綱									
みせどりうきねつすみたはら	四巻	墨川亭雪鷺作	歌川国直画	文政	一一、	一			一、九〇〇
都息浮寝岡田川									
しゃうずいしらぎくものがたり	六巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	一一、	一			一、九〇〇
祥瑞白菊物語 初綱									
祥瑞白菊物語 二編	四巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	八、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
しゃうずいしらぎくものがたり	四巻	墨川亭雪鷺作	歌川国丸画	文化	九、	一			一、九〇〇
祥瑞白菊物語 三編									
祥瑞白菊物語	六巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	三、	一			一、九〇〇
	四巻	墨川亭雪鷺作	歌川国丸画	文政	二、	一			一、九〇〇
	五巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	五、	一			一、九〇〇
	六巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	七、	一			一、九〇〇
	六巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	八、	一	二	一、九〇〇	三、八〇〇
	六巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	文政	一一、	一			一、九〇〇
	四巻	墨川亭雪鷺作	歌川国丸画	文政	一二、	一			一、九〇〇
	六巻	墨川亭雪鷺作	歌川国安画	嘉永	四、	一			一、九〇〇
	四巻	墨川亭雪鷺作	歌川国丸画	嘉永	五、	一			一、九〇〇

照天姫黄昏帰紙　六巻
霞帯春空解　四巻
隅田堤二人連弾　五巻
鶯墳梅未本初編　四巻
父雛宇都宮譚二編　四巻
浮世街道教連解　三巻
今昔虚実鍬　六巻
相撲忠義傳　六巻
竹春駒心弓綱　六巻
比翼紋濃紫染初編　四巻
比翼紋濃紫染二編　四巻
菅原傳授手習鑑　六巻
薄雪佐宇紙　六巻
時花歌春連弾　四巻
重伎小夜衣草紙　四巻
宮戸川三社網船　六巻

女合法戀修行者　五巻
千本桜後日仇討　四巻
松山茶筌責話種瓢　六巻
新紙繍紛八丈　五巻
由良湊入船日記　五巻
菊慕艶揚妻　四巻
室弦花魁　六巻
今昔猿人眞似　三巻
能優楽屋雑談越路之怪　四巻
雨雄奇人　六巻
福徳天長大団柱二　六巻
鶯櫂矢数物語　六巻
昔替浴衣園之島　六巻
梅桜對櫂八　六巻
枝珊瑚京打笄　六巻
奥真砂筑地白浪　六巻

東西庵南北作　文化七、一、一
勝川春扇人画　文化九、一、一
歌川豊清画　文化九、一、一
三亭春馬画　天保一〇、一、一
歌川国貞画　天保一〇、一、一
春亭三暁画　文化一一、一、一
歌川国丸画　文化一一、一、一
墨川亭雪麿作　天保一一、一、一
歌川貞虎画　天保一一、一、一
墨川亭雪麿作　天保一一、一、一
五渡亭国貞画　天保一一、一、一
東西庵南北作　文化九、一、一
勝川春好画　文化一〇、一、一
東西庵南北作　文化一〇、一、一
花園亭美丸画　文政五、一、一
萍亭柳菊作　文政五、一、一
歌川国貞画　天保一一、一、一
立川雪馬作　天保一一、一、一
歌川国貞画　天保一一、一、一
三升代作五柳亭徳升　文政一一、一、一
二世北尾重政画　文政一〇、一、一
菊亭懸賀作　文政一〇、一、一
歌川豊国画　弘化二、一、一
林屋正蔵作柳亭種彦校合　文政一二、一、一
二世北尾重政画　文政七、一、一
吹堂閒人作　文政七、一、一
歌川国丸画　文政七、一、一
東西庵南北作　文化一三、一、一
柳川重信画　文化一三、一、一
尾上梅幸代作　文政一〇、一、一
五渡亭国貞画　文政一〇、一、一
三升代作五柳亭徳升　文政九、一、一
歌川国安画　文政一一、一、一

東西庵南北作　文化七、一、一
勝川春扇人作画　文化九、一、一
歌川国貞馬作画　天保一〇、一、一
歌川国丸暁作画　文化一一、一、一
一寿斎国政水作画　嘉永三、一、二
徳圃子芳虎画作　弘化四、一、二
歌川芳丸悲成画作　天保二、一、一
東里山人画　文化一三、一、一
桜川慈悲成豊国画作　天保二、一、一
墨川亭雪麿作　天保六、一、一
三世歌川豊国画作　嘉永六、一、一
墨川亭雪麿作　天保六、一、一
一寿斎英寿画　嘉永五、一、一
一寿斎英寿作　嘉永五、一、一
歌川芳藤画　嘉永六、一、一
歌川芳宗画　嘉永六、一、一
自画自賛　文政五、一、一
歌川国貞画　文政九、一、一
三世北尾重政画作　文化一四、一、二
一、九〇〇
三亭春馬画　天保一〇、一、一
歌川国貞画　天保一〇、一、一
春亭三暁画　文化一一、一、一
歌川国丸画　文化一一、一、一
一寿斎国政水作画　嘉永三、一、二
徳圃子芳虎画作　弘化四、一、二
歌川芳丸悲成画作　天保二、一、一
東里山人画　文化一三、一、一
桜川慈悲成豊国画作　天保二、一、一
墨川亭雪麿作　天保六、一、一
三世歌川豊国画作　嘉永六、一、一
墨川亭雪麿作　天保六、一、一
一寿斎英寿画　嘉永五、一、一
一寿斎英寿作　嘉永五、一、一
歌川芳藤画　嘉永六、一、一
歌川芳宗画　嘉永六、一、一
自画自賛　文政五、一、一
歌川国貞画　文政九、一、一
三世北尾重政画作　文化一四、一、二
一、九〇〇
三亭春馬画　天保一〇、一、一
歌川国貞画　天保一〇、一、一
春亭三暁画　文化一一、一、一
歌川国丸画　文化一一、一、一
一寿斎国政水作画　嘉永三、一、二
徳圃子芳虎画作　弘化四、一、二
歌川芳丸悲成画作　天保二、一、一
東里山人画　文化一三、一、一
桜川慈悲成豊国画作　天保二、一、一
墨川亭雪麿作　天保六、一、一
三世歌川豊国画作　嘉永六、一、一
墨川亭雪麿作　天保六、一、一
一寿斎英寿画　嘉永五、一、一
一寿斎英寿作　嘉永五、一、一
歌川芳藤画　嘉永六、一、一
歌川芳宗画　嘉永六、一、一
自画自賛　文政五、一、一
歌川国貞画　文政九、一、一
三世北尾重政画作　文化一四、一、二
一、九〇〇

其をたよりし相ある若だ姥うば雲ばが名なをきんぺ
返うったの合あが驚が池いけ山まはち達ちすの歌そく仙かせん初綿
絵えも、江えの島まも石ばし物もの語がたり綿
劇がぶき物もの山ま嶋ま姥ばが詣うで

六巻　四巻
六巻　四巻

歌式北瀬歌里　式歌東歌王歌武歌柳
川亭尾川川川　序川西川匂川序川水
豊三美路国亭　三国庵員蒔員小国序
国馬丸秀員雪　馬直朝秀作秀三芳種
馬作馬作馬磨　作馬北　馬作　馬青作

合計

大化八、	大政一、	大政二、	大政三、	弘化三、	弘化二、	天保一〇、	改元				
一	一	一	一	一	一	一	一				
一	一	一	一	一	一	一	一				
一	一	一	一	一	一	一	一				
二〇	三	四									
				一、五〇							
四〇、〇〇	一、三五〇、〇〇	一、三〇〇、〇〇	一、三九〇、〇〇	一、三〇〇、〇〇	一、三〇〇、〇〇	一、九〇〇、〇〇					

短篇合巻本類内容目録

書名

書名	著者	画者	出版年	数量 部	単価 冊	金額 件
春海月玉取	六巻	歌川豊国	文政二、	一	一、九〇〇	
大師河原撫子話	六巻	歌川豊国	天保一二、	三	一、九〇〇	五、七〇〇
松風鉦蔵行平鍋須磨泡醐村雨箕吉	六巻	歌川豊国	文化九、	二	一、九〇〇	三、八〇〇
千代葉館世継雑談	六巻	歌川豊国	文化九、	一		一、五〇〇
安達原滝鏑木	六巻	歌川豊国	文政三、	二	一、九〇〇	三、八〇〇
六ヶ敷荘子蝶胥鞅	六巻	歌川豊国	文政九、	一	一、九〇〇	
諸時雨紅葉合傘	六巻	歌川豊国	文政一〇、	一	一、九〇〇	
甲斐背峯梅桜対姉妹	六巻	歌川豊国	文政七、	一	一、九〇〇	
越後三弓小女郎蜘蛛怨苧環	六巻	歌川豊国	文政六、	一	一、九〇〇	
大師河原撫子話	六巻	歌川豊国	天保一二、	一	一、九〇〇	
代夜待白女辻占	六巻	歌川豊国	天保元、	一	一、九〇〇	
白鼠忠義物語	四巻	歌川国貞	弘化元、	一	一、九〇〇	
幸牛織女願糸竹	六巻	歌川国貞	文政一〇、	三	一、九〇〇	五、七〇〇
十三鐘孝子勲績稚物語	十巻	歌川国貞	文化六、	一	一、九〇〇	
敵討児の手がしは	五巻	歌川国貞	文化五、	一	一、九〇〇	
倭字筆の寿	六巻	歌川国貞	天保六、	一	一、九〇〇	
汐汲の花桂夕のゆうしほ	六巻	歌川国貞	文化九、	一	一、九〇〇	
鐫山後日噺	六巻	歌川国貞	文化一四、	一	一、九〇〇	
桜女おん清せいげん玄	六巻	歌川国貞	文政七、	一	一、九〇〇	
右金の花	五巻	歌川国貞	文化一四、	一	一、九〇〇	
雪明常磐松 初篇	六巻	歌川豊国	文政一二、	二	一、九〇〇	三、八〇〇
瑜伽山おとこむすびはなのえんぎ起	六巻	歌川豊国	天保元、	二	一、九〇〇	三、八〇〇
霊験男結花縁起	六巻	歌川豊国	文政一二、	二	一、九〇〇	三、八〇〇
新世製小人島巡	四巻	歌川豊国	文化九、	一	一、九〇〇	
木の下闇緑のはやし	五巻	歌川豊国	文化一四、	一	一、九〇〇	
敵討誉の社	三巻	歌川豊国	文化六、	一	一、九〇〇	
義経越路の松	六巻	歌川豊国	嘉永五、	一	一、九〇〇	
玉菊物語	五巻	歌川豊国	天保三、	一	一、九〇〇	
結神末松山	六巻	歌川国貞	文化六、	一	一、九〇〇	
復讐女諸礼亀鑑	五巻	歌川豊国	天保元、	一	一、九〇〇	
京三十三間堂大矢数意恨討	六巻	歌川豊国	文化六、	一	一、九〇〇	
三峯霊験取狼助劔	六巻	歌川豊国	文化六、	一	一、九〇〇	
菊酒屋	六巻	歌川豊国	文政二、	二	一、九〇〇	三、八〇〇

| | | |

| | | |

六巻　六巻　六巻　

照天姫黄昏粧紙　六巻
霞帯春空解　四巻
隅田堤二人連弾　五巻
鶯墳梅赤本初編　四巻
父雛宇都宮譚二編　四巻
浮世街道教連解　三巻
今昔虚実録　六巻
相撲忠義傳　六巻
竹春駒心ヲ綱　六巻
比翼紋濃紫染初編　四巻
比翼紋濃紫染二編　四巻
菅原傳授手習鑑　六巻
薄雪佐宇紙　六巻
時花歌春連弾　四巻
重伕小夜衣草紙　四巻
宮戸川三社網船　六巻
女合法戀修行者　五巻
千本桜後日仇討　四巻
松山茶筌責話種　六巻
新織綺紛八丈　五巻
由良湊入船日記　五巻
国性爺合戦　六巻
菊襲艶揚妻　四巻
室弦花魁　六巻
今昔猿人真似　三巻
雨雄杉門人　六巻
福徳天長大国柱二　六巻
艶権矢衾物語　六巻
着替浴衣團七島　六巻
梅桜對権八　六巻
枝珊瑚京打笄　六巻
奥玉砂筑地白浪　六巻

勝東里山人画　文化七、一、一、九〇〇
春扇馬作　天保一〇、一、一、九〇〇
三亭国貞画　文化一一、一、一、九〇〇
歌川三晩作　嘉永三、二、一、八〇〇
一寿斎国政画　弘化四、二、一、九〇〇
金水作　嘉永三、二、一、八〇〇
徳蘭子芳虎画　天保二、一、一、九〇〇
歌川芳虎作　文化一三、一、一、九〇〇
東里山人画　弘化四、二、一、九〇〇
歌川芳丸作　嘉永三、二、一、八〇〇
桜川慈悲成画　天保二、一、一、九〇〇
墨川亭雪麿作　天保九、三、一、九〇〇
三世歌川豊国画　文化一四、二、一、九〇〇
北尾重政画　天保二、一、一、九〇〇
歌川国信作　文化一一、一、一、九〇〇
自馬　天保一〇、一、一、九〇〇
景斎英寿画　嘉永五、一、一、九〇〇
歌川芳宗作　文化一四、二、一、九〇〇
一筆斎英寿作　天保六、一、一、九〇〇
一鳴斎芳藤画　嘉永六、一、一、九〇〇
墨川亭雪麿作　文政二、一、一、九〇〇
一ツ万斎国芳画　天保六、一、一、九〇〇
東里山人画　嘉永六、一、一、九〇〇
勝川春扇作　文政二、一、一、九〇〇
美図垣笑顔作　天保一一、二、一、九〇〇
五雲亭貞秀画　天保八、一、一、九〇〇
一亭芍丸作　文政二、一、一、九〇〇
歌川豊松画　天保一一、二、一、九〇〇
市川三升代作　天保九、三、一、九〇〇
一勇斎国芳画　天保一一、二、一、九〇〇
五柳亭徳升　文政一一、一、一、九〇〇

東西庵南北作　文化九、一、一、九〇〇
歌川豊清画　文政一〇、一、一、九〇〇
墨川亭雪麿作　天保七、二、一、九〇〇
歌川貞虎画　天保五、一、一、九〇〇
墨川亭雪麿作　天保一〇、一、一、九〇〇
五渡亭国貞画　文政五、一、一、九〇〇
萍亭柳菊作　文政五、一、一、九〇〇
柳煙亭拙国画　花園翁美丸画　一、一、一、九〇〇
東西庵南北作　文政五、一、一、九〇〇
勝川春好画　天保五、一、一、九〇〇
一龍斎貞秀画　天保一〇、一、一、九〇〇
墨川亭雪麿作　天保一一、二、一、九〇〇
歌川貞秀画　文化一〇、一、一、九〇〇
式亭小三馬作　文化一二、一、一、九〇〇
歌川国貞画　文政一〇、一、一、九〇〇
東里山人作　文化一二、一、一、九〇〇
勝川春好画　天保一一、二、一、九〇〇
東西庵南北作　文政一〇、一、一、九〇〇
歌川豊清画　弘化二、一、一、九〇〇
歌川豊国画　文政一〇、一、一、九〇〇
三升代作五柳亭徳升　文政一〇、一、一、九〇〇
二世北尾重政画　文政一〇、一、一、九〇〇
萬亭應賀作　文政一〇、一、一、九〇〇
歌川豊国画　文政一〇、一、一、九〇〇
林屋正蔵作柳亭種彦校合　文政一二、一、一、九〇〇
二世北尾重政画　文政一〇、一、一、九〇〇
三升代作花笠文京　文政一〇、一、一、九〇〇
歌川貞秀画　文政一〇、一、一、九〇〇
東西庵南北作　文化一三、一、一、九〇〇
柳川重信画　文化一三、一、一、九〇〇
歌川国丸画　文政七、一、一、九〇〇
吹堂閑人作　文政七、一、一、九〇〇
尾上梅幸代作　弘化二、一、一、九〇〇
五渡亭国貞画　弘化二、一、一、九〇〇
三升代作五柳亭徳升　文政九、一、一、九〇〇
歌川国安画　文政九、一、一、九〇〇

其そのつたの　合あいが　篤かん病びょうも　初ういたづら　名なを　祝ぎたが　雲くもの　山やまはち子こ　白しらいし　物もの　語がたり　編
浮うらふ　あ　た　え　ま　ば　ま　ま　ま